



令和7年度 果樹情報 特別号

～ 果樹カメムシ類の防除対策 ～

(令和7年7月14日)

福島県農林水産部農業振興課



福島県病害虫防除所より7月10日付けで「令和7年度病害虫発生予察情報 注意報 第1号」が発表されました。

果樹カメムシ類の誘殺数は、平年より多い状況が続いています。

果樹園への飛来が懸念されるため、発生状況に注意を払い、防除対策を徹底しましょう。

1 果樹カメムシ類の発生状況

- (1) 病害虫防除所によるフェロモントラップ調査では、4月5半旬～6月6半旬の果樹カメムシ類の越冬世代の誘殺数が、調査している9地点のうち5地点で平年より多く、平年の2倍以上となっています(表1、図1、図2)。また、越冬成虫の飛来が落ち着くとされる6月に入っても、誘殺数が増加している地点があります。
- (2) 6月中旬の巡回調査では、もも、なし、りんごの果実被害や果樹カメムシの卵、幼虫が確認されています(図3)。
- (3) 天候予報(令和7年7月10日付け仙台管区气象台)によると、向こう1ヶ月は平年に比べて気温が高くなる見込みであり、今後も果樹カメムシの類の活動が活発になると予想されます。
- (4) 越冬世代の発生量が多いことから、今後、第1世代成虫の飛来量が多くなると見込まれます。

表1 フェロモントラップにおける
果樹カメムシ類越冬世代の誘殺状況
(4月5半旬～6月6半旬)

	2025年(頭)	平年(頭)	平年比(倍)
福島市大笹生	84	32.7	2.6
福島市飯坂町	134	6.8	19.7
国見町	308	39.8	7.7
鏡石町	59	46.3	1.3
郡山市	19	12.0	1.6
会津坂下町	154	19.5	7.9
相馬市1	283	54.3	5.2
相馬市2	1255	-	-
いわき市	1	2.8	0.4

注1) 福島市飯坂町(過去6年)、郡山市(過去9年)、相馬市1(過去4年)、いわき市(過去5年)は例年

注2) 相馬市1は5月5半旬以降中止
相馬市2はR6から調査開始のため平年値なし

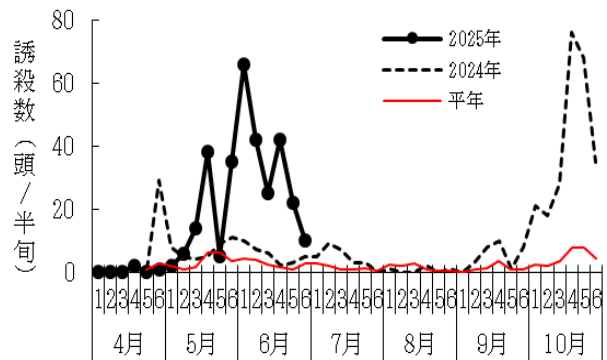


図1 果樹カメムシ類の誘殺状況(国見町)

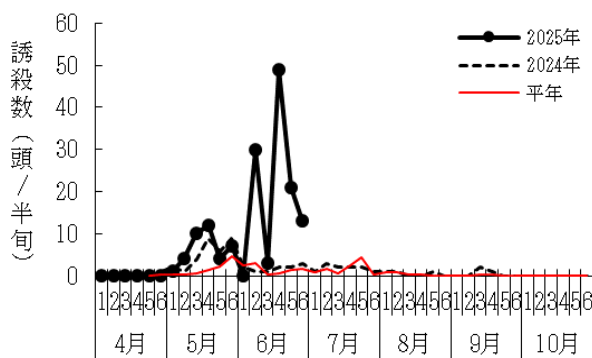


図2 果樹カメムシ類の誘殺状況(会津坂下町)



図3 チャバネアオカメムシの幼虫と卵塊

果樹園における発生状況に注意し、
地域が一体となって防除対策を徹底しましょう！

2 防除対策

(1) 発生状況の確認と

- ・園地をこまめに見回り、成虫の飛来状況をよく確認しましょう。病虫害防除所のホームページ（下部にURL掲載）にフェロモントラップデータが掲載されておりますので、参考にしてください。
- ・園内への飛来や加害は、夜温や湿度の高い日に多くなる傾向にあります。また、地域や園地によって飛来数の差が大きく、特に山間部や山林に隣接する園地では飛来が多くなる傾向があるため注意しましょう。
- ・果樹カメムシ類の第1世代成虫は7月下旬頃から発生し、8月上旬頃にピークとなりますが、園地への飛来時期については正確な予測が困難なため注意が必要です。

(2) 薬剤防除

- ・園内での成虫の飛来状況をよく確認し、多数の飛来を確認した場合は、樹種に応じて表2～4の薬剤を選んで早急に散布しましょう。その際は、薬剤の使用濃度、収穫前日数などの農薬使用基準を遵守してください。なお、合成ピレスロイド剤（3A）は天敵への影響が大きく、ハダニ類やカイガラムシ類の増加を招くことがあるので留意しましょう。
- ・果樹カメムシ類は、移動性が高いので、防除効果を高めるために、地域で一斉防除を行うことが望ましいです。

(3) 耕種的防除等の実施

- ・果樹カメムシ類は果樹類の葉などに断続的に産卵するため、葉裏を定期的に観察し、産卵された葉はふ化、分散する前に摘み取り、適切に処分しましょう。

表2 りんごにおける果樹カメムシ類防除薬剤の農薬使用基準

薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
3 A	イカズチWDG	1,500	収穫前日まで	2回以内
	スカウトフロアブル	<u>1,500</u>	収穫前日まで	5回以内
	ロディー水和剤	<u>1,000</u>	収穫前日まで	2回以内
4 A	アクタラ顆粒水溶剤	<u>2,000</u>	収穫7日前まで	2回以内
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内
	バリアード顆粒水和剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内

注) 登録内容は令和7年7月10日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づくもの。
 ネオニコチノイド剤（RACコード4A）は吸汁阻害効果、残効性は優れますが、殺虫効果、耐雨性は薬剤で異なります。また、合成ピレスロイド剤（RACコード3A）は殺虫効果、吸汁阻害効果、残効性が優れています。

表3 ももにおける果樹カメムシ類防除薬剤の農薬使用基準

薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
3 A	アグロスリン水和剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	5回以内
	アディオン乳剤	2,000	収穫7日前まで	6回以内
	イカズチWDG	1,500	収穫前日まで	5回以内
4 A	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	アドマイヤー顆粒水和剤	<u>1万</u>	収穫3日前まで (ただし、露地栽培 については発芽期か ら開花期を除く)	2回以内
	アドマイヤー水和剤	1,000		
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	<u>2,000</u>	収穫7日前まで	3回以内

注) 登録内容は令和7年7月10日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づくもの。
ネオニコチノイド剤(RACコード4A)は吸汁阻害効果、残効性は優れますが、殺虫効果、耐雨性は薬剤で異なります。また、合成ピレスロイド剤(RACコード3A)は殺虫効果、吸汁阻害効果、残効性が優れています。

表4 なしにおける果樹カメムシ類防除薬剤の農薬使用基準

薬剤系統	薬剤名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数
3 A	アディオン乳剤	2,000	収穫前日まで	2回以内
	イカズチWDG	1,500	収穫前日まで	3回以内
	スカウトフロアブル	1,500	収穫前日まで	5回以内
	ロディー水和剤	1,000	収穫前日まで	2回以内
4 A	アクタラ顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	アルバリン顆粒水溶剤	2,000	収穫前日まで	3回以内
	ダントツ水溶剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内
	モスピラン顆粒水溶剤	<u>2,000</u>	収穫前日まで	3回以内

注) 登録内容は令和7年7月10日現在。希釈倍数の下線は試験研究成果に基づくもの。
ネオニコチノイド剤(RACコード4A)は吸汁阻害効果、残効性は優れますが、殺虫効果、耐雨性は薬剤で異なります。また、合成ピレスロイド剤(RACコード3A)は殺虫効果、吸汁阻害効果、残効性が優れています。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、参照してください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬の散布は使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>